

2011.10.13

研究会員の声 (添付 7 以降)

これらは責任のとれない立場からのフリートークを記録したものですので、誤解などあるかも知れません。それを承知でお読みください。「日立造船(株)さんはその経営姿勢で掲げた通りの高いコンプライアンスを持って行動している」と信じておられる方は読まないで下さい。

○ 犯罪のタイプに分類するとすれば、” 幼児わいせつ ” ですね。中小だと大きな声を出せない、そこが付け目でしょう。追い出された人たちが作った NBL 研の事業に対して、HZ さんが妨害に出たことがありましたが、相手が大手だったので、ぴしゃっとやられ、逆に始末書の類を出さされたことがあると聞いています。また、何人かの同様の被害者のことも聞いています。

○ 孫会社に日立造船コンポジットという立派な名前を付けましたね。尋常ではないやりかたですが、ファンドに売り飛ばすのではないのでしょうか。Dr. Nishino を追い出した時点で、手に負えないゴミ技術になってしまっており、実体を話せばまったく売れないでしょう。でもど素人相手のファンドなら通る可能性もあるでしょう。しかし売れば日立造船(株)のみならず、日本の恥となります。

○ 今回の公開質問状で、日本の太陽電池技術 (サンテック) に投資し、世界企業に育て上げた中国ファンドの親分が、日立造船株価が 5-10% 下落したことに対して非常に興味していました。土地評価に代表される従来の日本の会社評価の方法が、会社の技術レベルやフェアさなど、よりグローバルな評価方法に変化するのではないか、ということです。サンテック技術が日本で評価されず、中国で花開いたのは、日本の評価システムがおかしく、評価できない人たちが評価を行ってきたということでしょう。

○ 最初は紳士然とした日立造船(株)H 田常務執行役員の「ウイウイの関係で双方が利益になるようやってみましょう」の甘言を信じて、経営を任せる体制 (51% 株委譲) とした。それが担当が替わり、「2/3 株を寄こさないと社内の了解が得られず資金援助できない」(K 原部長) と変わった。そこで倒産危機を救うために、学者経営グループは退職金や親戚からの借金を含め、会社に貸した。

学者経営グループ等からの負債があることは経営委譲時に十分説明したにもかかわらず、現在は難癖をつけて会社へ貸したお金も踏み倒す体制をとっている (計およそ 6000 万円)。この状態は「一緒になろうと同棲を始めたら寝ているときに毎晩首を絞められた。これではさすが結婚できないと思ったが、とどのつまり母屋を取られて追い出され、貸し金も言いがかりをつけて返してくれない」である。信頼の原則を踏みにじるやり方はヤクザの論

理とどう違うのか考えさせられる。

これは組織的役割分担による実効的詐欺行為であり、これらの経緯は順次音声なども入れてネットで公開せよ。

○ 学者グループが持ち寄った開発資金が”詐欺グループ”に分捕られようとしている。証拠を見せられると論理を次々替えていく品位のない踏み倒し論法と、それに平気で加担する従金無論理弁護士名を順次、公判進行にしたがって、準リアルタイムに公表していく。ヤクザの難癖とどう違うかご覧下さい。

○ これからは、日本の技術の健全な発展を望む立場から、企業にはアンフェアで強欲な技術の横取りではなく、正当な対価を伴ったフェアな対応を望むところである。そのためには、企業活動の各場面、とくに日立造船さんには本件および過去の事例を引き合いに、取引等双方にフェアな関係を堅持するよう注意喚起を求めていく、またその過程を公開してくような仕掛けが必要であろう。さらに一部上場という資格に対して、その品位を確認するよう証券取引所に要求することも必要ではないか。

○ 日立造船さんの間違いは、(1) Dr.Nishino を追い出し、(2) 株主間協定で Dr.Nishino を縛ろうとしたが、うまく逃げられたこと、(3) 独り占めを狙ったが、ネットを利用した新しい形のコンプライアンス糾弾劇場に主役で登場させられたこと、であろう。

(3) では、経営陣を入れ替え、過去を反省し、改めることで、一部上場企業の名に恥じない名誉回復の機会もないわけではないであろう(ただし、今のところ、2度あることは3度あるに該当しているが)。そのためには、各方面でとくに日立造船さんを対象として「取引等双方にフェアな関係を堅持するよう注意喚起を求めていく、場合によっては双方に説明を求める、またその過程を公開してくような仕掛け」の構築を始めようではないか。

○ 日立造船さんから見た収支計算は、たとえばこうなるであろう。

(1) 投資金額 - 10 億円、

(2) 学者を中心とする旧 NBL 経営グループが持ち寄った資金を”合法化”して分捕りつつある金額 1 億数千万円、

(3) 乗っ取りした会社 NBL から資産を移した新会社をファンドに売り逃げすることができれば、新会社(日立造船コンポジット)の資本金 8000 万円の 40 倍の売値 30 億円が可能。ただし、日立造船のブランド名はつけた (+) が、係争案件 (-) で、かつ Dr.Nishino の技術をはるか follow できていない (-) ことを考えると、まともなファンドは買わない、期待薄。

(4) 3 度目(以上?)のコンプライアンス欠如を公にされたことによるイメージ低下、
800 億円 × (5-10% 株価低下) = - 数十億円相当。

(5) 140 億円の訴訟をかかえることにより、毎期に利益より引き当て一数十億円。
(3) までの計算では 20 億余円の収益があるはずであったが、(4)、(5) が入ったので、(3) も覚束なくなり、うん 10 億円のマイナスの可能性が大きくなったということではないでしょうか。

○ 資金に余裕ができれば日立造船に対して 140 億円の訴訟を行うことが、世直しの出発点になる。世直し資金と考えれば可能な範囲である。

○ 日本の資本主義の父といわれる渋沢栄一は利について、「自己のみに偏せず、公利を害せぬやうに心掛け、道理に照らし義に従うて事を行へば他より怨まるはずなし」と説いている。最近、ウォール街で拝金主義に反発するデモが起こったが、倫理や道理を忘れた資本主義はないと思う。

○ 公開質問状の元となったグローバル**学会では、企業人はグローバルと名がついても従来の価値観や現実の商売での利害から、このような行動に対する危惧がまず出てくる。一方、大学関係者は広い視点からグローバル経営のあり方、理念を考え、我が国が突きつけられた問題であると受け止めており、これを解決していかないと、我が国が中国、韓国等新興国に追い抜かされるとの危機感が強い。ネット時代であるので、仮名にする意味が少ないので、企業の過去の履歴を含めて実名で学生教育に活かすべきと受け取る声強い。

○ もう一つ、日立造船さんの多数の社員・株主個人の方々は正常な倫理観をもっていると思われる。知らないだけなので、我々の行動を個別に訴えていくことも必要ではないか。

○ (株)NBL 研究所* **西野義則会長の言**：日立造船(株) は私の出身会社であるが、誇りとしていた高い技術が枯れていき、お金屋さんが支配し、高い技術を育てていこうという思想が全く抜けており、結果として韓国・中国に追い抜かれていくことを非常に残念に思う。

FRP 高圧管技術に関しては海外では Dr. Nishino でないと通用しない。HZ さんはお金でねじ伏せようとしたが、頭まではよう持って行かんかった。持っているのは数年前の技術でもう古い。過去には S 金さんが失敗したし、現在の陣容では製品の強度計算や機械の改修すらおぼつかない。

某学会では公開質問状を出すことで名誉毀損で訴えられるような恐怖心から騒ぎになったが、そもそも” 幼児わいせつ ” 的な加害者が声を出せなかった被害者を恥をさらして訴えることはしない。してくれば幸いで広く訴える好機と見る。

我々がサンテッククラスの技術の成功を信じ、給料も払えず苦しい中で支え合って開発してきた成果を弱みにつけ込み、いじめ抜き、甘言役と締め上げ役分担で倫理・コンプラ

イアンスを無視して乗っ取ろうとする姿勢には怒り心頭に達している。こんなことを許しておれば日本は食えなくなる。具体的な商談をつぶした得べかりし利益損失 140 億円の訴訟はタイミングを見て必ずやる。世直しとして我々の年代の義務であり、残りの人生をかけて取り組む。

編集後記： Dr.Nishino も日本利益の希求者であり、NEDO の支援も受けていることから当初は我が国への技術定着を図る期待も込めて HZ さんへ工場運営の話を持って行ったようである。ところが彼の在籍当時と会社が大きく違って「赤ずきんちゃん」にされてしまった。ほうほうの体で逃げ帰った Dr.Nishino はこれでは日本沈没と考え、同様の危機感をもつ学者・研究グループとともに、公開質問状を始めとして、世直しをすることを決意したということである。

当該社は分業方式で黒幕には火の粉がかからず、労力手間のかかる開発生産よりも横取り・独り占めすることに価値を見いだす体制となっている。しかし、将来の国民が食っていけるようにするためには労を惜みず、フェアで真のグローバル基準に基づく競争力のある企業のみが生き残っていける環境を醸成することが必要である。これは国民の見る目にかかっている。今回の公開質問状で株価が下落したことは、少しはそれが実証されたといえるであろう。これを継続できれば我が国の光明となるであろう。

* (株)NBL 研究所

<http://www.nbl-technovator.jp>

本公開質問状は Google 検索「日立造船 公開質問状」で出てきます。
また、上記 NBL 研究所のホームページからもリンクしています。

<http://www.nbl-technovator.jp/compliance.html>